

氏名： 中村 美奈子 (NAKAMURA Minako)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 芸術学士 (東京藝術大学)、人文科学修士 (お茶の水女子大学)
職名： 准教授
専門分野： 民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー
URL： <http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/>
E-mail： nakamura.minako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

民族舞踊研究／舞踊記譜法 Labanotation／舞踊動作分析／ダンスとコンピュータ／インドネシア (バリ島)
Ethnochoreology / Labanotation / MotionCapture / Dance & Computer / Indonesia(Bali)

◆主要業績

総数 (5) 件

- NAKAMURA Minako, SHIBANO Kohji and HACHIMURA Kozaburo: "Computational Analysis of Balinese Dance Using LabanXML", 25th Biennial Conference of ICKL, Jul.29- Aug.5, 2007, Mexico(Proceedings 発行予定)
- NAKAMURA Minako: "Corpus based approach to dance analysis - A case study on Balinese dance "Legong Lasem" ", International Symposium on Skill Science 2007 (ISSS'07), Sep.18-20,2007,(Proceedings pp149-153)
- NAKAMURA Minako: "Corpus-Based Approach to Dance Analysis:A Case Study of Balinese Dance Using Laban(Labanotation)XML", International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture, Dec.21, 2007, Kyoto(Ritsumeikan Univ.) (Proceedings pp53-61)
- 小島一成, 澤井麻奈美, 小田邦彦, 中村美奈子 「舞踊における指導言語が身体運動に及ぼす影響」, エンタテインメントコンピューティングシンポジウム 2007(EC2007) 論文集, pp7 -10、2007年12月
- 神奈川大学 21世紀 COE 国際シンポジウム「場の記憶・からだの記憶 非文字資料研究の新地平」セッションIV「身体技法及び感性の資料化と体系化」コメンテーター 2008年2月24日(神奈川大学)

◆研究内容 / Research Pursuits

筆者は、インドネシア・バリ島の舞踊などアジア地域の民族舞踊を研究対象とし、その舞踊の技法、表現特性、舞踊構造の分析を行っている。2007年度は、萌芽研究「舞踊の電子テキスト研究－文理融合型の民族舞踊研究の視点から」の研究代表者として、舞踊研究にコンピュータテクノロジーを方法論として用いるとどのような研究が可能になるかということテーマに、アジアの民族舞踊のモーションキャプチャによるデータ取得、データ分析を中心に行った。また、ICKL 国際会議 (メキシコ) スキルサイエンス国際シンポジウム、立命館大学 GCOE 国際シンポジウムにおいて、舞踊記譜法 Labanotation の XML 化に関する研究発表を行った。また、中国の新疆芸術学院舞踊講師を外国人客員研究員として受け入れ、新疆でのウイグル舞踊のフィールド調査を行った。

I am studying the dance technique and structure of Balinese (Indonesian) dance.

In 2007, I took part in the COE research project in Ritsumeikan University as a COE guest researcher and read my paper on Laban(Labanotation)XML of Balinese dance at the International Symposium: Human Body Motion Analysis with Motion Capture held in Kyoto.

And also, I read my paper on "Computational Analysis of Balinese Dance Using LabanXML" at 25th Biennial Conference of ICKL held in Mexico.

◆教育内容 / Educational Pursuits

舞踊教育学コース所属の学生らは、そのほとんどが、バレエやモダンダンスなど西洋の芸術舞踊を実践してきている人たちである。筆者の教育目標は、さまざまな身体表現、舞踊表現が世界には存在すること、また、舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた表現様式をもっていること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能をも果たしていること等を理解してもらうことである。それによって舞踊創作の新しい視点を与えてあげることができればと願っている。2007年度は、筆者によるバリ舞踊の授業だけでなく、日本在住の韓国人舞踊家（僧舞の人間国宝後継者）、ウイグル舞踊の舞踊家による実演とワークショップを「舞踊論」の授業で行った。また、一般体育（スポーツ健康科目）では、2006年度よりヨガの実技を担当し、学生らの集中力の養成と心身の調整に力を注いでいる。大学院の授業では、「多文化舞踊教育」に関する文献の購読を行った。

Most of the students in our dance education course only know Western dances such as Ballet or Modern dance. I am teaching those students that there are many more kinds of dances which have their own cultural background and that some of them do not appear artistic but perform a social function.

In 2007, in addition to those lectures and practices, I gave a special lecture on Korean dance with live performances by a Korean dancer who is a living national treasure.

To the graduate students I gave a lecture on "Multicultural Dance Education" from the point of view of Ethnochoreology (Dance Ethnology)

◆研究計画

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきた。今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えている。また、無形文化財のデータベース（アーカイヴ）化、特に舞踊や身体表現に関するデータのアーカイヴ化についての研究は事例が少なくメタデータの整理も進んでいないことがプロジェクト研究を通して分かってきたので、これらの点についても検討を行っていきたい。

◆メッセージ

舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた多様な表現様式があること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能持つものもあることを是非みなさんにも知ってもらいたいと思っています。同時に、バリ島の舞踊は見ていると緩やかで楽しそうですが、実は中腰の姿勢で踊るのはいかにきついかということをも是非実技授業で体験してください。そんな「伝統的」な舞踊の研究をしている私ですが、実は大変な新しいもの好きで、共同研究のほうでは、1998年頃からずっとモーションキャプチャという装置で舞踊の計測をしてきています。舞踊とデジタル技術がどうつながるのだろうと不思議に思われる人もいるかもしれませんが、科学技術は常に進歩しながら人文学にすり寄ってきているのではないかというのが今の私の実感です。共通の関心として「人間とは何か」という問いかけがあるように思います。